

令和6年度 岡本北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに、社会の変化に向き合い、生き抜いていくために求められる力を養う。

【具体目標】（目指す子どもの姿）

・学び合う子 ・助け合う子 ・鍛え合う子

【子どものスローガン】 「つよく やさしく かしい子」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の主体性を生かした教育活動を展開するとともに、「安心・安全に生活することのできる楽しい学校」「自分の力を発揮し互いに高め合える学校」「きまりを守りお互いを尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）○心豊かでたくましく生きる児童を育成する教育活動を積極的に推進するとともに、一人一人が安心して生き生きと活動できる学校づくりに努める。
- （2）「宇都宮モデル」を活用した授業改善や個に応じた指導、ICTの有効活用等により、基礎・基本の定着と主体的・対話的な学びを実践できる確かな学力の向上を目指す。
- （3）自ら健康や体力づくりに励むとともに、自他の生命を尊重して互いに認め合い、児童一人一人が、健康で安心・安全な学校生活を送るための判断力と行動力を育成する。
- （4）教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽を積み、指導力及び資質の向上を図る。
- （5）校務の明確化・重点化・効率化を推進し、やりがいとチームとしての協働意識をもって勤務できる学校づくりに努める。
- （6）学校、地域、家庭との連携、学校園における小中の連携を推進するとともに、地域の教育資源や教育力を活用し、開かれた学校づくりを推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や目標をもち、その実現に向けて、よく考え、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- （1）本校の教育課程は、日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則等の諸法律、小学校学習指導要領、栃木県教育委員会の指導方針、宇都宮市教育委員会の指導方針、第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画、学校教育指導の重点を踏まえた教育課程を編成する。
- （2）「1 学校教育目標」及び「3 学校経営の方針」「5 今年度の重点目標」に則り、地域や学校、児童の実態及び児童の心身の発達と特性を十分考慮して、知・徳・体の調和のとれた、心豊かでたくましい児童の育成が図れるように「7 特色ある学校づくり等に関する取組」を組み込み充実した教育課程を編成する。
- （3）学校行事や諸教育活動のより一層の精選を図るとともに、教育活動が創意と工夫に満ちたものになるよう教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営
○児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、主体的に困難に立ち向かうたくましい児童の育成
・保護者、地域、団体、企業との連携・協力体制を構築し、地域の教育力を生かした教育活動による人づくり
・校務内容の改善と遂行の効率化と勤務時間を意識した働き方の推進
(2) 学習指導
・「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化
・主体的に学び考えを広め深める児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり
○1人1台端末、ICTを活用した授業展開の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習活動の充実
(3) 児童生徒指導
・基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成、思いやりの心の育成
○いじめ・不登校等の未然防止、早期発見及び適切な初期対応等による支援の充実
・一人一人の存在感を認め合える学級づくりの充実
(4) 健康（保健安全・食育）・体力
・自分の健康や体力についての理解と年間を通しての多様な体力向上推進計画の実践
○自他の命の大切さを考え、危険を予測し、正しく判断して行動する児童の育成
・望ましい食習慣の定着と健康を管理する能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 教職員→ 90%以上	① <u>児童の興味関心を高める学習課題の設定やICT機器の日常的な活用を図り、「分かる」「できる」授業の展開に努める。</u> ② <u>効果的なグループ活動や話し合う場面を意図的に設定し、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりすることで、互いの良さを認め、協働して課題解決を目指す機会を確保する。</u> ③ 宇都宮モデルを踏まえた「はっきり！じっくり！すっきり！」の流れを意識した授業構成や、視点を明確にした振り返りを着実に実施し、深い学びの実現に努める。	B	【達成状況】 肯定的回答率（指標より↑or↓） 児童：94.8%↑、教職員：100%↑ ・ICT機器の日常的な活用や話し合い活動、学習の振り返り等、宇都宮モデルを意識し授業構成をすることで、児童の主体的な学びを促すことにつながった。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・①児童の主体的な取組を促すめあての設定に向けて、引き続き成果と課題を日々確認・改善を図っていく。 ・②話し合いの目的をはっきりさせることで、児童の学びを深められるようにする。 ・③学年の発達段階に応じた「振り返りの視点」の整備を進め、質の向上を図れるようにする。

1- (2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① <u>学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童の自主性を尊重しながら、互いに協力して活動する場を意図的に設ける。</u> ② <u>日頃から児童の善い行いや頑張りを率先して称賛するとともに、教職員間で情報を共有する。また、各種たより等を通して児童のよさを発信するとともに、各学級において「ふわふわ言葉」の励行を図ることで、自己肯定感を高めたり、意識の高揚を図ったりする。</u> ③ <u>道徳科や総合的な学習の時間等の授業を充実させるとともに、人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。</u>	【達成状況】 肯定的回答率 児童：94.1%↑，教職員：100%↑ ・児童の自主性を尊重した活動はできたが、「きらりん」の有効活用については今後も検討が必要である。 ・「ふわふわ言葉」を教室に掲示したり学級目標に取り入れたりするなど、普段から推奨することで、児童の意識の高まりがみられた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・②各学級での「ふわふわ言葉」の工夫や取組について、教職員間で共通理解する機会を設けることで、児童の意識をさらに高められるようにする。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 80%以上 教職員→ 85%以上	① <u>授業や当番活動・委員会活動等において、児童同士が目標に向かって協働する姿を積極的に認め励ます指導を通して、児童の自己肯定感を高める。</u> ② <u>道徳科の内容項目「自主、自立、自由と責任」「向上心、個性の尊重」「希望と勇気、努力と強い意志」等において、目標に向かって粘り強く取り組むことのよさに気付かせるとともに、実践意欲を高める。</u> ③ <u>児童が目標達成に向け意欲的に取り組む姿を、各種たよりやホームページ等で保護者や地域等に発信・共有化を図る。</u>	【達成状況】 肯定的回答率 児童：92.6%↑，保護者：81.3%↑，教職員：100%↑ ・道徳科で、目標に向かって粘り強く取り組むことのよさに気付けるように授業を展開し、児童の意識を高めた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・③児童が目標に向かって粘り強く取り組む様子を、学年だよりやホームページ、授業参観等で更なる発信をしていく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上 教職員→ 90%以上	① <u>早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら継続して周知し指導を行う。</u> ② <u>規則正しい生活を送るために、スマホ、ゲーム等の利用時のルールや睡眠時間の確保等について、各種たよりや授業参観等を通じて家庭との連携を図ることで、日常的に指導を行う。</u> ③ <u>日常における安全指導を充実させるとともに、避難訓練等を計画的に実施し、危険を予測し、自らの生命を守る判断力や態度を育てる。</u>	【達成状況】 肯定的回答率 児童：94.8%↑，保護者：84.5%↓，教職員：96.2%↑ ・目の健康を守るためのアンケート等を実施し、児童の実態を把握することができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・児童が健康や安全について、自分事としてとらえるなど意識をさらに高めていけるよう、委員会活動等を中心に啓発を強化していく。

1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 授業や当番活動・委員会活動等において、児童同士が目標に向かって協働する姿を積極的に認め励ます指導を通して、児童の自己肯定感を高める。【A3①再掲】 ② 効果的なグループ活動や話し合う場面を意図的に設定し、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりすることで、互いのよさを認め、協働して課題解決を目指す機会を確保する。【A1②再掲】 ③ 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさを自覚し、夢や目標の実現を目指して努力しようとする意欲や、望ましい職業観を、キャリアパスポートを効果的に活用しながら、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：93.4%↑，教職員：100%↑ ・授業において、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりする機会をより一層確保したことにより、児童は互いのよさを認め、協働して課題解決に取り組む姿が多く見られた。 B 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・行事等の活動中や振り返り等を効果的に活用し、自分はクラスのみならず一緒に学校をより良くしていく一員であるという、児童の帰属意識をさらに高めていく。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 児童→ 80%以上 教職員→ 85%以上	① 外国語科及び外国語活動の授業において、必然性のある言語活動を設定することで、自分の気持ちや考えを表現し合うことができるようにする。 ② ALTとの連携を強化し、学年の実態に応じた外国語科及び外国語活動に取り組むことで、英語に親しみ、英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。 ③ 教材教具の工夫・資料の充実を図り、英語に関わる環境を整備する。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：85.3%↑，教職員：96.2%↑ ・ALTと授業者が十分に事前の打合せをしてから授業に臨むことで、児童の実態に応じた学習活動を展開することができた。 ・授業時間以外にも児童が外国語に触れる環境整備を進めたことで、児童が外国語に親しむことができた。 B 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・①英語の表現を聞く活動を意図的に増やすことで、児童の英語での発話につながる力（話す力、書く力）を高められるようにする。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 児童→ 80%以上	① 宇都宮学や社会科での市内・地域に関連した学習や、生活科、総合的な学習の時間における郷土の学習等において、地域の教育力を生かし指導の充実を図る。 ② 教職員が研修等に積極的に参加し、宇都宮市の歴史や文化、伝統産業等についての理解を深めるとともに、校内にフィードバックすることで、互いの指導力向上を図る。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：87.2%↑ ・岡本城跡の清掃や伝統文化等の各種体験活動や地産地消の給食等とおして、宇都宮のよさや魅力に触れる機会を充実させることができた。 B 【次年度の方針】 ・①②継続 ・今後も地域の教育力を生かした取組等を継続するとともに、ホームページや学年だよりを活用して情報発信を行っていく。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、パソ コンや図書等を学習に活用し ている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① デジタル機器や図書資料を活用 した授業を意図的・計画的に行い、 児童の情報収集の能力や活用する 力を育む。 ② 各教科等年間指導計画に関連し た図書資料の整備・充実に努める。 ③ 読書マラソンカードの効果的な 活用や朝読書の継続、毎月のボラン ティアによる読み聞かせ等を通じ て、児童の読書活動の更なる充実を 図る。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：92.9%↑，教職員：100%↑ B ・各学年の実態に応じて1人1台端末 や図書資料の活用を進めることがで きた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・③年度途中から導入された読書マ ラソンカードのICT化については、適宜 成果と課題を確認し、改善を図れるよ うにする。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、「持続 可能な社会」について、関心 をもっている。」における肯定 的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① SDGsについて職員研修等で 教職員が理解を深めるとともに、児 童が自分事として捉えられるよう、 授業の導入や掲示物等の工夫・改善 を図る。 ② 東日本大震災等の災害について の学習や、避難訓練を定期的に実施 することで防災への意識を高める。 また、エネルギーや環境問題等につ いて、自分事として捉えさせ、給食 時の牛乳パックリサイクル等に前 向きに取り組ませる。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、 全教育活動を通して人権教育を計 画的に実施する。【A 2 ③再掲】	【達成状況】 肯定的回答率 児童：93.6%↑，教職員：80.8%↓ B ・給食時の牛乳パックリサイクル等の 日常の取組や授業での指導を通して、児 童の意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・①教職員が各種研修等を通して「持続 可能な社会」について理解を深め、教材 の共有・蓄積努めるとともに、掲示物等 を充実させ、児童の興味関心をより一層 高めていく。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、 特別な支援を必要とする児童 の実態に応じて、適切な支援 をしている。」における肯定的 回答 教職員→ 85%以上	① 特別な支援を必要とする児童に ついて、日頃から職員間で情報交換 を密にし、特別支援教育コーディネ ーターや児童指導主任を中心とし て、校内支援委員会やケース会議等 において対応を協議し、組織的な指 導に努める。 ② 特別支援学級の児童や通級児童 等について、個別の支援計画を作成 し、合理的な配慮を伴う指導に努め る。 ③ 全児童に対して全教職員が共感 的理解に基づく指導に努める。	【達成状況】 肯定的回答率 教職員：96.2%↑ B ・定期的に全職員で支援の必要な児童 について共有する機会を設けた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・今後も児童一人一人に対して適切な 支援を行えるよう、組織的に対応する。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A 11 教職員は、いじめが許 されない行為であることを 指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、 いじめが許されないことを熱 心に指導してくれる。」におけ る肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上	① いじめは絶対に許されない行為 であることを、朝の会や帰りの会、 道徳科の授業、学級活動等あらゆる 場面を通して継続的に指導し、人権 に配慮した学級づくりを心掛ける。 ② いじめに関するアンケート調査、 「なんでも相談」、いじめゼロ集会、 いじめゼロリボンの配付、ケース会 議等の計画的な取組を通して、いじ めの未然防止・早期発見に努める。 また緊急時には、いじめ等対策委員 会の開催等、組織的に対応する。 ③ 全教職員が自らの人権感覚の醸 成に努めるとともに、いじめと思わ れる案件を認知した場合には、組織 的に対応する。また、各種たよりや 懇談会等で、学校での取組について 保護者に丁寧に説明し、理解と協力 を求めていく。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：97.8%↑，保護者：79.1%↓ B ・いじめゼロ集会の開催や、クラスごと にいじめゼロスローガンを作成・掲示す るなど、年間を通して継続的な指導を行 った。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・③引き続き、全教職員の研修等による 人権感覚の錬磨やいじめ等への未然防 止・早期発見に努めるとともに、学校で の取組を各種たより等でさらに保護者 に発信していく。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上	① <u>日頃から児童が互いを認め合える学年・学級づくりに努めるとともに、認め励ます指導を意図的に実施することで、児童の自己肯定感を高める。</u> ② <u>「なんでも相談」、アンケート、Q U調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見に努める。</u> <u>また、連続での欠席等、配慮の必要な児童については、電話等により家庭との連携を密にし未然防止に努めるとともに、速やかに全教職員で情報を共有する等、校内の支援体制を強化する。</u>	【達成状況】 肯定的回答率 児童：98.3%↑ B ・日頃の家庭との連携や各種調査等も活用し、配慮の必要な児童等への早期対応等に努めた。全職員での情報共有や組織的な対応を確実に行うことができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・取組の着実な継続と更なる家庭との連携を図るとともに、学校での取組を各種たより等で発信していく。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上	① 学校行事や児童会活動、縦割り班活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定することで、児童の自己肯定感を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにする。 ② 職員間で情報共有を密にし、児童一人一人の個性や特性の理解に努めるとともに、児童の話に耳を傾けたり、前向きな声かけを通して、認め、励ます指導に努める。 ③ 活動を盛り上げる雰囲気づくりに心掛けるとともに、自他の違いやよさを認め合う場面や振り返りの場を意図的に設定していく。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：96.3%↑、保護者：87.1%↓ B ・縦割り班活動等において、児童同士が互いのよさを認め合う場面が多く見られるとともに、児童に寄り添う指導に努めることができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・児童の主体的な活動をさらに後押しすべく、認め励ます指導を心掛けるとともに、児童自らが進んであいさつができるよう、教師も率先垂範を心掛けるなど、活気ある学校づくりにより一層取り組んでいく。
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上	① <u>ねらいを明確にした、分かりやすくきめ細かな授業を実践するとともに、振り返りの時間を確保することで基礎・基本の確実な定着を図る。</u> ② <u>個の特性や能力に応じた支援を工夫するとともに、T・T、少人数指導、習熟度別学習等により、効果的な指導を行う。</u> ③ <u>I C T等教育機器の効果的な活用、対話を生む学習形態の工夫や、児童が考える場面と教師が教える場面の組み立て等、単元を見通した学習計画及び授業展開を行う。</u>	【達成状況】 肯定的回答率 児童：98.5%↑、保護者：83.8%↓ B ・ねらいを明確にした授業実践が、児童の分かりやすさにつながったと考えられる。 ・児童の実態に応じた授業や個に応じた支援の工夫をさらに進め、児童の学びの充実感の向上と、基礎・基本の定着を図れるようにする。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・①②児童の「分かった」「できた」の充実を図れるよう、授業を展開できるようにする。 ・②朝の学習を効果的に活用し、基礎・基本の定着を図れるようにする。 ・③対話による学習の充実が図れるよう、課題設定や、目的意識の持たせ方を工夫する。

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 教職員→ 85%以上	① 「チーム岡北」の合言葉のもと、学校行事の準備、運営や諸問題への対応を互助的、組織的に行う。 ② 教職員の特性や得意分野が生きる組織運営に努めるとともに、互いの悩みや困り感を気軽に相談し合える職員室の雰囲気づくりに努める。 ③ 職員相互の業務内容を理解し、コミュニケーションを図りながら協力し合える体制づくりに努める。	【達成状況】 肯定的回答率 教職員：100% ↑ ・「チーム岡北」で、学校行事の準備、運営や諸問題への対応を互助的、組織的に行うことができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・教職員の特性や得意分野を生かせる組織を目指し、個の力の集結により、チーム岡北をさらに強化できるように努めていく。
4- (3) 学校における 働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 教職員→ 80%以上	① 教職員一人一人が働き方改革の視点に立ち、業務の効率化を図るとともに、月2回のリフレッシュデーの実践など、適正な勤務時間の意識化に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、校務分掌の改善や学校行事等の実施方法の改善、業務の削減を検討し、実行に努める。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用を推進するとともに、共有フォルダ内の情報整理・共有に努め、業務の効率化を図る。	【達成状況】 肯定的回答率 教職員：84.6% ↑ 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・教職員が児童とじっくり向き合える時間の確保や放課後の教材研究等の時間を生み出せるよう、各種行事等の精選や業務の適正化を推進するとともに、教職員のウェルビーイング向上にも努めていく。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」における肯定的回答 児童→ 80%以上 保護者→ 80%以上	① 各校種や小中合同での「あいさつ運動」を中心に、学校園の各部会で企画した小中連携の取組を実践し、古里地域学校園教育ビジョンの実現に努める。 ② 学校園の学力向上部会、ICT教育推進部会、生活支援部会、交流連携部会の活動を通して、三校の相互支援体制を充実させる。 ③ 学校園各部会の取組状況を、各種たよりやホームページ等で積極的に発信していく。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：91.7% ↑、保護者：80.8% ↑ ・小中合同での「あいさつ運動」や中学校教員による「乗り入れ授業」など、学校園の各部会で企画した小中連携の取組を実践し、古里地域学校園教育ビジョンの実現に努めた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・③学校園における小中一貫の取組をより計画的に実施するとともに、その取組状況を各種たよりやホームページ等で積極的に発信していく。
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」における肯定的回答 保護者→ 85%以上 地域住民→ 85%以上	① P T A、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、さらなる教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。 ② <u>地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業を計画・実施することで、地域の教育力を生かした教育活動を推進するとともに、取り組みの様子を各種たよりやホームページで発信する。</u> ③ <u>地域コーディネーターとの連携を密にし、学習支援ボランティア等の効果的な活用を図り、より充実した教育活動の展開を図る。</u>	【達成状況】 肯定的回答率 保護者：89.8% ↑、地域住民：100% ↑ ・地域コーディネーターと連携し、様々な活動において学習支援ボランティアを効果的に活用し、より充実した教育活動を展開することができた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・今年度同様、学習支援ボランティアや企業等による出前授業の効果的な活用を図り、教育活動のより一層の充実を図っていく。

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「」における肯定的回答 保護者→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施するとともに、危険箇所等が発見された場合は、迅速な改善や修繕に努める。 ② 清掃の手順を明確に示したり、身の回りの整理整頓に関する指導を日常的に行ったりすることで児童の環境美化への意識を高めるとともに、教職員も率先垂範を心掛ける。 ③ 避難訓練や引き渡し訓練等の計画的な実施や危機管理マニュアル等の整備により、災害や不審者侵入等の不測の事態に備えるとともに、熱中症や感染症の防止対策等を万全に行う。	【達成状況】 肯定的回答率 保護者：84.9% (同じ), 教職員：100% ↑ ・ 日常的な安全点検や学校敷地内の環境美化、通学路の適宜巡回等、安全配慮に努めることができた。 【次年度の方針】 ・ ①②③継続 ・ 今後も児童や保護者・地域住民にとって安心安全な学校環境づくりに努めるとともに、施設の老朽化に伴う修繕等を来年度も計画的に実施していく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」における肯定的回答 教職員→ 85%以上	① ICT機器や学習用ソフト・図書資料等の整備に努めるとともに、それらの有効活用に向け、適宜研修を行う。 ② 各教科等において、<u>学習主導主任や情報教育主任を中心にICT機器等の活用場面を意図的に設定し、活用を図る。</u> ③ 各教職員がICT支援員と連携を密にし、ICTに係る教材の蓄積とクラスルームの活用推進に努める。	【達成状況】 肯定的回答率 教職員：96.2% ↑ ・ ICTの活用に慣れ、日常的な利用が進んだ。 【次年度の方針】 ・ ①②③継続 ・ ICT機器等の整備やICT支援員との連携を強化するとともに、ICTの各教科等での意図的な活用や更なる有効活用に向け、職員間で研修・啓発を進めていく。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上	① 古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動の活性化を図るとともに、状況に応じた会釈の指導など、多様なあいさつの意識化・実践化を図る。 ② 学級懇談会や各種たより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を家庭に積極的に伝えとともに、「あいさつふり返しカード」を活用して学校・家庭・地域が一体となった指導を継続する。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：93.6% ↑, 保護者：96.2% ↑ ・ 「あいさつふりかえりカード」は活用できなかったが、児童会主導のあいさつ運動を実施し、あいさつの実践意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・ ①②継続 ・ 自ら進んであいさつをしたり、時と場に応じたあいさつができるよう、児童会活動や登校班を中心に推進していく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、児童が話し合って、自ら学級のきまりやマナーをつくるという、主体的な取組をより一層推進する。 ② 月末の「ふりかえりタイム」において、きまりやマナーについての児童の自己評価や生活目標の達成状況等について、校内掲示板等を活用し全教職員で成果や課題を共有するとともに、各種たより等で家庭とも連携を図りながら、継続的に指導を行う。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：96.3% ↑, 教職員：96.2% ↑ ・ 「ふりかえりタイム」を利用して、月に一度、自分の行動について客観的に振り返る機会を設けることができた。 【次年度の方針】 ・ ①②継続 ・ 毎月の生活目標について、成果と課題を職員間で共有するとともに、児童が主体的に意識・行動できるよう委員会等で積極的な呼びかけを行っていく。

	B3 児童は、互いに話し合い、協力して活動している。 【数値目標】 独自アンケート「私は、学級や縦割り班活動等の時に、みんなで話し合ったり、協力したりして、意欲的に活動している。」における肯定的回答 児童→ 90%以上	① 学級において、日頃から互いに助け合い協力し合うことの大切さを指導するとともに、道徳科の授業において協力・協調の態度を育む指導を充実させる。 ② 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において、話し合い、コミュニケーションを図れる場、協力して活動する場を意図的に設け、児童の取組を認め励まし、意欲の向上を図っていく。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：96.3%↑ ・学級活動や縦割り班活動等において、互いの意見を出し合い協力して活動することで、児童の意欲を高め、互いの絆を深めることができた。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・活動内容の精選とねらいの明確化をはかり、児童が互いに協力し、認め励まし合う活動の充実を図っていく。
	B4 児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値目標】 独自アンケート「私は、家庭学習をする習慣が身に付いている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 80%以上	① 古里地域学校園「家庭学習のすすめ」や岡北小「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の内容や分量、方法を低・中・高学年ごとに具体的に示すとともに、取組について称賛したり励ましたりして習慣化を図る。 ② 家庭学習の意義や学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に周知し、理解や協力を得られるよう努める。	【達成状況】 肯定的回答率 児童：89.2%↑、保護者：74.1%↓ ・着実に取り組む児童が多く見られる一方、進んで取り組めない児童も一定数見られ、家庭学習する習慣の個人差が大きい。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・①②宿題を中心にしつつ、自主学習を推進することで、家庭学習の習慣化を図れるようにする。 ・①家庭学習カードについて、発達段階に応じた工夫を取り入れ、児童の意欲の向上を図るとともに、家庭学習の大切さについて、保護者への協力・啓発も行っていく。
	B5 自分の学校のよさを知り、自校への愛情や誇りを持っている。 【数値目標】 独自アンケート「私は、学校の良いところや自慢できることを知っている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上	① マスコットキャラクター「きらりん」の存在意義や魅力について児童と教職員が共に考え、学校教育活動全般における「きらりん」の効果的な活用を児童と共に推進することで、生きる力を育む活動のより一層の充実を図る。 ・縦割り班活動・各種行事・地域清掃活動(岡本城跡)等 ② 自他を理解し、尊重し合い、支え合う望ましい学級づくりを目指す活動の充実を図る。 ③ <u>地域の教育力、地域資源を活用し、連携を図った教育活動を推進する。</u> ・地域の団体・施設、地域協議会と連携した教育活動 ・各種訓練や下校時の見守り ・各種授業における学習ボランティアの活用	【達成状況】 肯定的回答率 児童：90.2%↑ ・愛校心の象徴的な存在である「きらりん」を様々な行事名に取り入れ、縦割り班活動等で異学年交流の充実を図ることで、愛校心を高めることにつながった。 ・各種ボランティア等の地域の多大なる協力に支えられ、教育活動の充実が図られた。 【次年度の方針】 ・①②③継続 ・自校のよさをより強く児童に認識させるため、発達段階に応じた指導を継続していく。 低学年・・・学校探検 中学年・・・地域めぐり 高学年・・・宇都宮学、岡本城跡 ・「きらりん」の存在価値や魅力、有効的な活用について、児童と教職員が共に考え、地域とともにより良い学校づくりを推進していきたい。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

17 評価項目（全 25 評価項目）において、数値目標を達成した。また、14 評価項目については、全ての評価対象において 85%以上の結果を得た。3 評価項目において肯定的回答率が 80%未満となっている評価対象がある。

【学校運営について】

A 3 「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」

肯定的回答率：児童 92.6% ↑，保護者 81.3% ↑，教職員 100% ↑

A 13 「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」

肯定的回答率：児童 96.3% ↑，保護者 87.1% ↓

A 16 「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」

肯定的回答率：教職員：84.6% ↑

- ・日頃の授業や縦割り班活動、学校行事等において、児童が目標達成に向け意欲的に協働する姿を、継続的に認め励ますことにより、児童の自己肯定感を高めることができた。ホームページ等で保護者等に更なる発信・共有化を図っていききたい。
- ・児童の主体的な活動をさらに後押しすべく、認め励ます指導に引き続き努めるとともに、児童自らが進んであいさつができるよう教師の率先垂範や、学習支援ボランティア等の地域の豊かな教育力の更なる活用など、活気ある学校づくりにより一層力を注いでいく。
- ・学校の働き方改革については、教職員が児童とじっくり向き合う時間の確保や放課後の教材研究等の時間を生み出せるよう、各種行事等の精選や業務の適正化を推進し、教職員のウェルビーイング向上にも努めている。家庭との連携に不可欠なさくら連絡網等の有効活用や学校電話の自動音声設定等、保護者の理解もいただきながら進めていきたい。

【学習指導について】

A 1 「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」

肯定的回答率：児童 94.8% ↑，教職員 100% ↑

A 14 「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」

肯定的回答率：児童 98.5% ↑，保護者 83.8% ↓

B 4 「児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。」

肯定的回答率：児童 89.2% ↑，保護者 74.1% ↓

- ・ICT機器の日常的な活用や学習活動の工夫を継続的に行うことで、児童の主体的な取組を促すことにつながってきている。今後もねらいを明確にし、児童の「分かった」「できた」の充実を図る授業や、個に応じた支援を工夫することで、児童の学びの充実感と共に、基礎・基本の定着を図れるようにする。
- ・基礎・基本の確実な定着には、自主学習を含めた家庭学習の習慣化が不可欠である。児童の意欲向上を図るべく、学習カードの発達段階に応じた工夫を取り入れるとともに、家庭学習の大切さについて保護者への啓発を図っていく。

【児童指導について】

A 2 「児童は、思いやりの心をもっている。」

肯定的回答率：児童 94.1% ↑，教職員 100% ↑

A 11 「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」

肯定的回答率：児童 97.8% ↑，保護者 79.1% ↓

- ・日頃から児童の善い行いを率先して称賛することや、「ふわふわ言葉」を普段から推奨することで、児童の意識の高まりがみられた。今後も自主性を尊重した児童の活動を支えていくとともに、道徳の授業等の実践事例を教職員間で共有するなど、児童の意識をさらに高められるよう研鑽を図っていく。
- ・日頃から、いじめは絶対許さないという毅然とした姿勢で、組織的な対応を行ってきた。また、いじめゼロ集会の開催やクラスごとにいじめゼロスローガンの作成・掲示など、年間を通して継続的な指導を行うことができた。引き続き、全教職員の研修等による人権感覚の錬磨やいじめ等への未然防止・早期発見に努めるとともに、学校での取組を各種たより等で、さらに保護者へ発信していく。

【健康体力・総合的な学習の時間・特別活動について】

A 4 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」

肯定的回答率：児童 94.8% ↑，保護者 84.5% ↓，教職員 96.2% ↑

A 19 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」

肯定的回答率：保護者 84.9% (同じ)，教職員 100% ↑

B 3 「児童は、互いに話し合い、協力して活動している。」

肯定的回答率：児童 96.3% ↑

- ・健康で安全な生活については、日々の基底的な指導や、計画的な避難訓練等の実施等を通して、児童が自分事としてとらえさせることが重要である。委員会活動等を中心に啓発を強化することで、児童の意識をさらに高めていききたい。また、朝食の大切さや十分な睡眠、スマートフォン等の安全な利用等について、家庭への啓発もより一層進めていく。
- ・学校の環境整備については、日常的な安全点検や環境美化、通学路の適宜巡回等、安全配慮に努めることができた。児童や保護者・地域住民にとって安心安全な学校環境づくりに努め、施設の老朽化に伴う修繕等も計画的に実施していく。
- ・協働することの大切さを重視した指導により、児童が互いに協力し、認め励まし合う活動を実施することができた。今後は活動内容の精選とねらいの一層の明確化を図り、さらに活動を充実させていく。

7 学校関係者評価

- ・ A 1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」について、児童が学習活動において ICT 機器を日常的に活用できることは素晴らしい。
- ・ A 7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」について、岡本城跡の清掃活動や伝統文化等の各種体験、地産地消の給食等をとおして、児童は宇都宮の魅力に触れる機会が充実していることは分かったが、保護者の肯定的回答率が 70.8%であることが気にかかる。宇都宮学の教科書の 1 人 1 台端末へのダウンロードや市ホームページへの公開等を市へ要望し、保護者の啓発を進めていくことが大切ではないかと感じた。
- ・ A 11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」について、児童の肯定的回答割合からも日頃からの教職員の指導に感謝したいが、やはりいじめは見えないところで起きていることが伺える。今後も未然防止や早期対応に尽力いただきたい。
- ・ B 4「児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。」については、今後もねらいを明確にし、児童の「分かった」「できた」の充実を図る授業や、個に応じた支援の工夫に期待したい。また、家庭学習の習慣化は家庭の協力が必要不可欠であり、保護者の肯定的回答率が 74.1%であることは看過できない。核家族化や保護者の共働き等、家庭環境の変化も一因かもしれないが、児童の意欲の向上を図るべく、家庭学習の大切さについて保護者への啓発をお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様方から頂いた貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度に向けて、さらに組織的・継続的な取組を充実・発展させ、教育活動のより一層の充実と目標の具現化を目指していきたい。

- ・ 確かな学力の定着に向け、児童の「分かった」「できた」の充実を図る授業に取り組むとともに、家庭学習の習慣化に向け、家庭との連携を図っていく。
- ・ 縦割り班活動等の児童の協働的に取り組む活動や「小中一貫教育・地域学校園」の取組を充実させるとともに、あらゆる機会を活用した効果的な情報発信を行うことで、さらなる活気ある学校づくりに努めていきたい。
- ・ いじめは絶対許さないという毅然とした姿勢で、日頃からの基底的な指導や、組織での未然防止・早期対応に努めるとともに、全教職員の研修等によるより一層の人権感覚の錬磨を図っていく。
- ・ 学校の働き方改革のより一層の推進に向け、業務の効率化等に努めるとともに、各種たより等で保護者等へ定期的に発信し、理解を得ていきたい。